

信号を無視させることができます。

2. 設定範囲は1～20秒間です。

速度表示オプション:

1. 速度表示の小数点以下の値を表示するかしないかを設定することが可能です。

2. スピードメーターの表示に関する設定値に依存します。

🔧: メンテナンスリマインダー

1. メンテナンスリマインダーは距離、または運転時間を基準にしてセットすることが可能です。この機能が必要ない場合はOFFすることも可能です。

2. 距離を基準にする場合は9999Kmまでの間隔を設定できます。

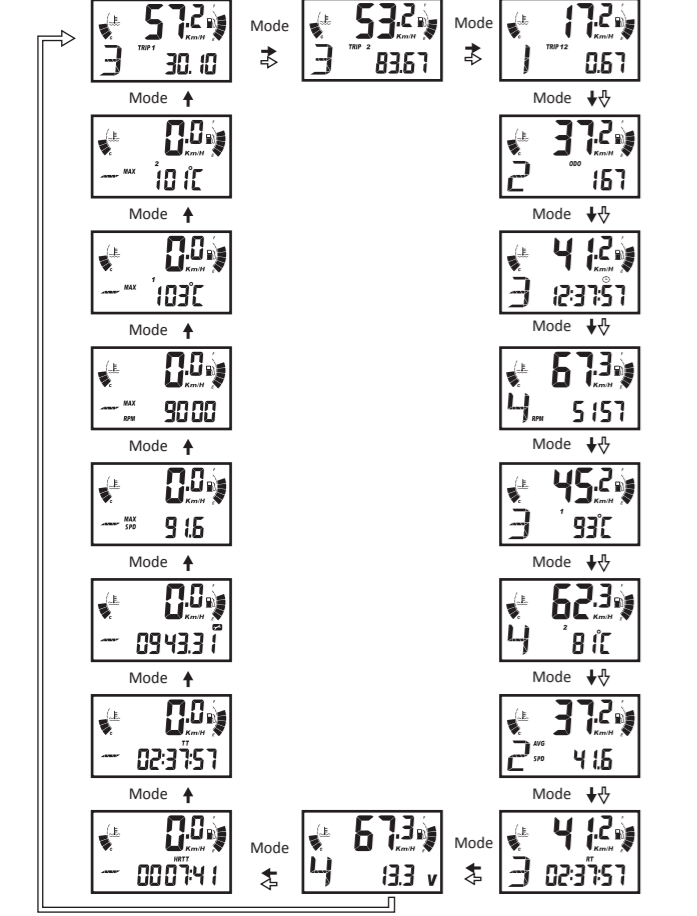
3. 運転時間を基準にする場合は9999時間までの間隔を設定できます。

ボタン操作

MODE ボタン

1. 速度バルスが入力されていない時は、MODEボタンを押すごとに “→” の順番に機能が表示されます。

2. 速度バルスが入力されているときはMODEボタンを押すごとに “⇒” の順番に機能が表示されます。



RESET ボタン

短く押した場合、MODEボタンを押した時と反対周りに機能が表示されます

データのリセット

- TRIP1・TRIP2・最高速度・最高回転数・最高温度が表示された状態でRESETボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0にすることができます。メンテナンスリマインダー の数値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
- TRIP1・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の値も同時にリセットされます。
- オドメーター・時計・総運転時間・総走行時間の各値はリセットできません。



シフトワーニング回転数設定

- MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
- RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
- 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが点滅動作します。
- 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態で RESET ボタンを2秒間長押しします。

ギヤインジケーター学習操作:

- リアホイールを使って速度を検出している場合、安全に固定されたレーシングスタンドなどで車輪を浮かせた状態で学習させることが可能です。フロントホイールを使って速度を検出させている場合、学習操作のために実際に車両を走行させる必要があります。
- MODEまたはRESETボタンを押して、デジタルタコメーターを表示します。
- MODE ボタンを2秒間長押しするとギヤポジション数設定モードになります。
- ギヤインジケーターが初期値の 0 で点滅します。

5. RESET ボタンでギヤポジション数を4〜8速の中から選択します。 “0”

を選ぶとギヤインジケーターをOFFすることができます。

- MODE ボタンを押すとギヤ比の学習モードに入ります。6. で “0” を選んだ場合には学習操作は終了となります。
- ギヤインジケーターに「1」が点滅します。ギヤを1速に入れ、車両を発進させ、エンジン回転数を2000〜4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
- 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅します。これで1速のギヤ比が学習されたこととなります。
- MODE ボタンを押すと1速のギヤ比が記憶され、2速の学習に入ります。
- ギヤインジケーターに「2」が点滅します。ギヤを2速に入れ、エンジン回転数を2000〜4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
- 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギヤインジケーターに「-」が点滅します。これで2速のギヤ比が学習されたこととなります。
- MODE ボタンを押すと2速のギヤ比が記憶され、3速の学習に入ります。
- 上の11.～13.の操作を繰り返し行い、すべてのギヤのギヤ比を学習させます。すべてのギヤ比の学習操作が終わった状態でMODE ボタンを押すと通常モード（デジタルタコメーター）に戻ります。
- 学習したギヤ比を保存しないで終了するにはMODE ボタンを2秒間長押しして通常モードに戻ります。

ラップタイマー用ワイヤードリモコン:

- ワイヤードリモコンにはMODEとLAPの2つのスイッチがあります。MODEスイッチは本体のMIDEボタンと全く同じ機能です。
- LAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードに入ります。
- ラップ計測操作:
 - ラップタイマーモードに入っているとき、LAPボタンを押すとラップ計測機能のスタート・ストップができます。MODEボタンを押すと、その周回のデータが記録されます。ディスプレイに周回データが3秒間表示され、その後速度表示に戻ります。計測が停止している状態でLAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードを抜け、通常モードに戻ります。
 - 保持可能なラップ数は最大99ラップまでとなります。100ラップ目以降のデータは1ラップ目より順次に書きされます。例えば101ラップ目のデータは2ラップ目のデータとして表示されます。

ラップ記録表示:

- ラップタイマーモードに入っていて計測が停止している状態でMODEボタンを押すと1周目のデータが表示されます。ディスプレイには周回数とその周回の計測時間が表示されます。
- MODEボタンを押すと次の周回のデータに表示が変わります。
- LAPボタンを2秒間長押しするとラップタイマーモードを抜け、通常モードに戻ります。

タイヤ外周長一覧表(マグネットセンサー用)

- 下表は次の計算式を使用して計算しています。
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」
表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。
- 車両のタイヤサイズを確認して下表より外周長を求めてください。

タイヤ直径	タイヤ外周長(mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長(mm)	タイヤ直径	タイヤ外周長(mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

- 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定してメーターに設定いただくことを強くおすすめします。
- 本機は、速度バルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合に限っての数値です。
- 製品に付属しているメーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h=1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
- マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2程度までに留めるほうが良いでしょう。
- 本機はスピードバルス分周器（1/2〜1/199）を内蔵しています。この機能を利用することでスピードバルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値はホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値はタイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用についてはその正確なスペックや信号の波形などをよく理解した上でなければ、車両やメーターに対して故障の大きなリスクを生じます。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行なって下さい。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要となりますので、お問い合わせの前にならずご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。その際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

時計・タコ・外周長・分周・単位・小数点・温度・リマインダ・燃料の設定

1. セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、タイヤ外周長、スピードパルス数、使用単位、小数点表示、メンテナンスリマインダ、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フェューエルセンサー抵抗値、ラップタイマー、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。

- セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
- セットアップモードは「12/24H」および「XX:XX-XX」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「RPM rXXX00」画面になります。出荷時は「RPM r06500」となっています。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「RPM SP 1r1P」画面になります。出荷時は「RPM SP 1r1P」となっています。設定には1r1P、1r2P、1r4P、2r1P、3r1Pの5種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
- RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。

- 次に「SPD SPn HALL」又は「SPD SEn rEEd」が表示されます。HALLはAcwell独自の2線式ホールセンサー（付属ワイヤーセンサーも含みます）に使用するモードです。rEEd はリードセンサー（別売のマグネットセンサー）や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「cXXXX」画面になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「SPD P-001」画面になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「P-001」となります。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に単位設定画面になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に、「99.9Km/H SPD と on」または「99Km/H SPD & oFF」が表示されます。小数点以下の表示をするかしないかの設定となります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次にメンテナンスリマインダー設定画面になります。「🔧」と「TRIP」「RT」または「oFF」が表示されます。TRIPでは1000km(621miles)が、RTでは100時間が初期設定値となっています。「oFF」の時には、この機能は無効に設定されています。設定をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「☐b-on」と点滅する電圧の数値が表示されます。「b-on」は低電圧警告開始電圧で、この電圧を下回ると警告LEDが点滅します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vです。設定を完了すると、次に「☐b-off」と点滅する電圧が表示されます。「b-off」は低電圧警告終了電圧で、この電圧を上回ると警告LEDは消灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-on」設定電圧より高い必要があります。設定を完了すると、次に「☐b-HI」と点滅する電圧の数値が表示されます。「b-HI」は高電圧警告開始電圧で、この電圧を上回ると警告LEDが点灯します。設定可能電圧は11.0V～15.0Vですが「b-off」設定電圧より高い必要があります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「🌡1 ℃」、🌡またはoFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「oFF」表示へと変わります。「oFF」にした場合、メーター上に温度計のバーグラフは表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「🌡1 XXX」と 14で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「**🌡2 ℃」、🌡またはoFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「oFF」表示へと変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「SCAn」とonまたはoFF」が表示されます。「点滅する 01 と SCAn」が表示されているとき、1秒間隔で液晶表示が次の機能に自動的に切り替わるという設定になります。画面変移時間は1〜20秒の間で設定が可能です。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「on、off または rES」と「🔦」が表示されます。バーグラフがすべて点灯している設定画面は燃料満タン時のフェューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。バーグラフが1つだけ点灯している設定画面は燃料0時のフェューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。「oFF」に設定した時には燃料計の機能はOFFとなり、メーター上に表示は現れません。「rES」に設定した時には入力線がアースされた時、メーター上に燃料のシンボルが現れ、LEDが点灯します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- **次に「1r、EF1、EF2 または EF3」表示となります。別売の赤外センサーを使用する時には「1r」に設定します。「EF1〜3」は磁気センサー用の設定です。1周あたりのマグネット埋設個数が1個の場合は「EF1」、2個の場合は「EF2」、3個の場合は「EF3」となります。手元のリモートスイッチを使ってLAP計測する場合には、この設定はどの値となっても関係ありません。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- **次に、「点滅する 01 と SEC」表示となります。ラップタイマーの誤動作を防止するため、ここで設定した秒数の間に複数のラップ信号が入ってもカウントせずに無視します。設定可能秒数は1〜20秒です。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
- 次に「000 と 00000X km」表示となります。1桁ずつ設定値を入力します。オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、押の入力間違いなどに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。

